

お母さんが作るようなやさしく・おいしく・愛に満ちた食を届ける

株式会社 ママミール

〒811-1311 福岡県福岡市南区横手2-9-13
TEL 092-915-2300 HP <http://mama-meal.com/>業 種 食料品製造業
従業員数 47名
資 本 金 125万円

事業内容

おいしくて栄養バランスのよい弁当や給食を幼稚園に提供

1978年に創業した手作り弁当を製造・配達する株式会社はたなかから、幼稚園の給食部門を独立・分社化して2010年に創業。福岡市内および近郊の幼稚園を中心に、弁当や給食、行事食などを届けている。ママミールという社名には「お母さんが作るお弁当のようにやさしく・おいしく・愛に満ちたお弁当や給食をお届けしたい」という思いが込められている。



改善成果のポイント

訪問支援回数 | 11回（支援期間：6カ月）

- 新工場開設にあたり、現工場の課題を徹底的に抽出
- 新工場に反映し、生産性を大幅に向上



Q どんな困りごと（課題）がありましたか？

当社の主力事業は、自社工場で製造する「幼稚園児用弁当事業」と、2019年に開園して自社で運営している「ぶろっこりの森保育園」内の「保育園内調理事業」の2つです。

近年は、みんな同じものを詰めた弁当よりも、温かい給食を子ども一人ひとりに合わせてつぎ分けたいという要望が多くなり、自社工場の生産能力が足りなくなってきました。調理場の作業スペースが複雑で作業動線が長いことに加え、手作業による材料カットやスープの製造、洗浄作業などに時間がかかり、スタッフの負担が大きくなっていることも課題であると認識していました。

2021年4月から新規受注が決まり、弁当製造数が更に増えることに伴い、近くに新工場を作って稼働することを決断しました。

課題 1 2 3



園内の調理場では小容量の食洗器を使っていた



大鍋では一度に作れるスープの量に限界があった

Q 改善の取組み内容を教えてください

新工場の開業を前にまず、既存の調理場が現状抱える課題をしっかりと見つめ、皆でアイデアを出し合って改善策を見出し、それを新工場に反映することで、より生産性の高い作業環境を作ろうと考えました。

既存の調理場で作業の様子を細かく観察し、課題を把握、調理スタッフから調理場の配置や調理機器についてのヒアリングを行い、新工場のレイアウト原案や導入予定の調理機器を示しました。そして何回にも及ぶ検討の末、ようやく最終レイアウトが完成しました。

さらにスタッフそれぞれが現在、どの時間帯にどんな作業（調理・仕込み・洗浄・食器準備など）をしているかを必要に応じ作業時間を測定してもらい、それらひとつひとつ書き出し、新工場では総作業時間と1食あたりの標準作業時間がどうなるかを算出し、作業手順や分担についても改善を重ねました。



大型でより高性能な食洗器を導入



回転釜で一度に大量のスープを作れるようになった

Q 取組んで良くなった点を教えてください

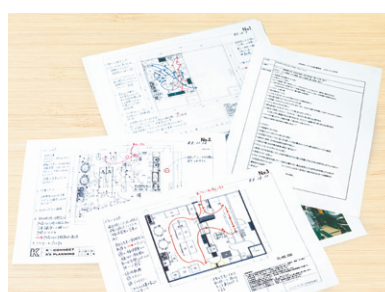
現場スタッフによる30件を超える提案を新工場に反映し、大変作業しやすいレイアウトになりました。

例えば、調理台はひと続きの長い台を2つの台に分割して間に通路を設けて動きやすいようにし、納入業者が立入らないで済むカウンターも設けました。

スープ作りは大鍋にスタッフが付きっきりでしたが、手間をかけずに作るために大きな回転釜にしました。

そのほか、蒸す・焼く・煮る・炒める・揚げるを1台でできる万能スチームコンベクションオープン、大量の食器を洗える食器洗浄機や両扉の消毒保管庫を導入したり高性能なものに変更したことで、作業能力が更に大幅にアップ。500食数の総作業時間が46.5人時間だったのに対して、改善後は800食数を48.0人時間でできるようになりました。

その日の調理食数に応じた最適な作業スケジュールと分担を決めて、適正な人員を配置できるようになりました。



新工場の図面を見ながらスタッフで意見を交わした



新しい消毒保管庫は食器をカートに載せたまま入れられる

メインの効果
(改善点)

副次効果

今後の目標

企業様の声

今回の支援を通じ、現場スタッフの声を知ることの大切さを学びました。また、より働きやすく生産性の高い職場を作ることができました。おかげさまで食数が増えても増員せず、作業開始時間を早めることもなく対応できています。

新しく採用頂いた園からは「子どもたちがおいしいと喜んで、よく食べるようになった」という声をいただき、とてもうれしく思っています。

株式会社 ママミール
代表取締役社長

畑中 章宏 様

生産性アドバイザーから一言

ママミール様の畑中社長は「現場のスタッフが使いやすい工場にしたい」という熱意を持ち、スタッフの声に丁寧に耳を傾けて、新工場を作り上げられました。スタッフも協力的で、自分たちの声を反映した新工場に愛着と誇りを感じて日々働いていることと思います。

生産性アドバイザー

中村 治